

# 学芸発表会 中・高学団のようす



「刻め 新たなページに 新たな歴史を」のスローガンのもと、実行委員会の児童・生徒が中心になり、学芸発表会（中・高学団の部）が行われました。今年度、1日目は「学習発表」、2日目は「合唱発表会」を行いました。

《学芸発表会が行われるまで...》

## ●学芸発表会実行委員の準備

学芸発表会を実施するために要となる学芸発表会実行委員は5～9年各学級から2名選出され、今年度は32名で構成されました。学芸発表会実行委員は各学級の合唱練習の計画・準備や学年練習、リハーサルのサポート、学芸発表会当日に向けた準備、運営など多くの役割がありました。各学年の学芸発表会実行委員が一丸となって、取り組むことができました。



## ●美術部の準備

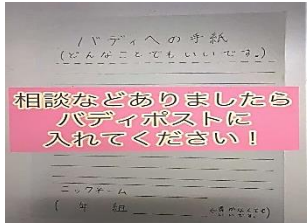
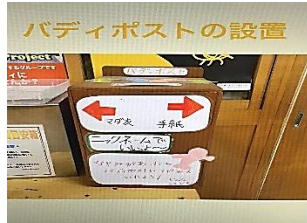
学芸発表会実行委員で決定されたスローガンを書いたステージ用看板は美術部が作製しました。今年度のスローガン「刻め 新たなページに 新たな歴史を」をコンセプトとして、巻物や書物などの造形物も制作しました。





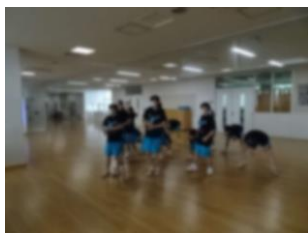
### ●スクールバディの練習・事前撮影

スクールバディは普段どのような活動を行っているのか、わかりやすく説明するため、内容はもちろん小道具や芝居など1からバディ全員で考えていき、動画の撮影・編集を行いました。



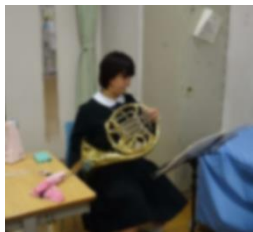
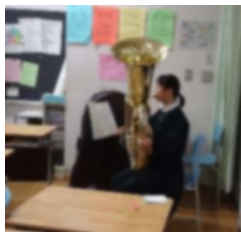
### ●ダンス部の練習・事前撮影

今年度は動画での発表ということもあり、屋上で撮影をしたり、衣裳に凝ったりしました。新型コロナウイルスの影響で部活動の時間も限られていましたが、4曲以上発表準備をしました。



### ●吹奏楽部の練習・事前撮影

今年度、学芸発表会で初めての演奏発表となりました。誰もが知っている曲を2曲練習してきました。イラストと合わせて動画ならではの発表会をすることができました。





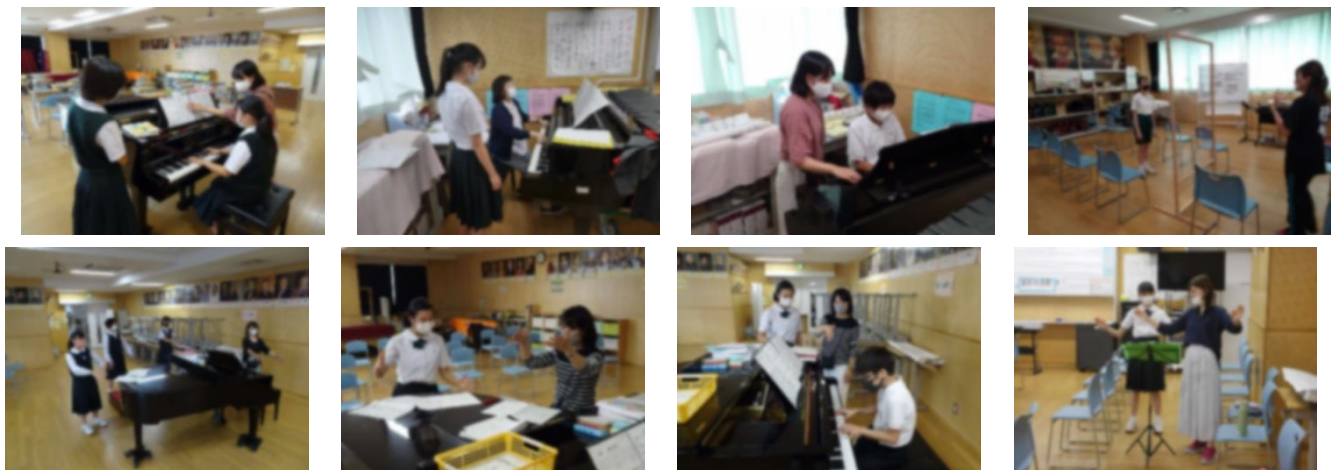
### ●各学年での選曲会

各学級で合唱する自由曲の選曲を三密にならないように行いました。選曲の際には、候補曲一曲ずつにどのような雰囲気曲か、自分の学級に合っているのかをメモをしながら試聴しました。



### ●指揮者・伴奏者の特訓

指揮者・伴奏者はオーディションを経て、朝や昼、放課後に練習を行って行きました。学級のみんなが合唱しやすくなるような指揮・伴奏の方法など音楽科の先生に教えてもらいました。



### ●放課後練習

例年よりも練習時間が限られている中、学芸発表会実行委員や指揮者、伴奏者、パートリーダーを中心に練習を行いました。





#### 《学芸発表会1日目：学習発表について》

今年度の発表団体はスクールバディ、ダンス部、吹奏楽部の三団体でした。5～9年全員が集合して発表を見ることができなかったので、撮影された動画を各学級で鑑賞することになりました。LIVEでの発表とはなりませんが、各学級で楽しく鑑賞することができました。

スクールバディは、身近に起こりうるSNSトラブルに触れながら、スクールバディの活動について、わかりやすく紹介してくれました。ダンス部は、アリーナや屋上などでダンスをしてお披露目した。曲に合った衣装を着て、迫力のあるダンスを披露してくれました。吹奏楽部は、みんながよく知っているジブリとディズニーの曲を2曲演奏しました。ノリのよいテンポで自然と手拍子が起こっていました。

#### 《学芸発表会2日目：5・6年生の合唱発表会について》

5年生にとっては初めてのクラスでの合唱。今まで学んできた歌い方をみんなで確認しながら、「ここはこんな気持ちで歌おう。」「歌声は出るようになってきたけれど、綺麗じゃない…」と、自分たちの歌声に向き合いながら練習に取り組んでいました。みんなで決めたことを自分たちのものにして、表現豊かに5年生らしい合唱ができました。6年生は昨年の経験を生かしながら、曲想や歌詞から場面に合った歌い方を考えました。その中でも一番考えたのは「どんな思いを込めて歌うのか」。コンクールではなく、発表会であったからこそ、自分たちの『伝えたい思い』をいつも以上に大切にできたのかもしれない。お互いの合唱を聴き、刺激し合い、クラスで心を一つに子どもたちが主体となって音楽を創り上げることができました。



#### 《学芸発表会2日目：7～9年生の合唱発表会について》

感染対策としてマスクをつけたまま、周囲との距離をとって歌うという、今までにない形での合唱でした。最初こそ不安を口にする生徒も多くいましたが、練習が進むにつれ一人一人の声が大きくなりました。本番1週間前には、どの学年も最初からは想像もできないほど自信に満ち溢れた歌声になっていきました。また、練習を重ねるうちに、マスクをしている分、今まで以上に歌う時の言葉の発音やブレス、表情を意識することの大切さを実感したという生徒たちの声を多く聞くことができました。マスクをつけて歌ってきたからこそ、学ぶことができたというのは、思いがけない発見でした。また、このような状況下だからこそ、共に歌い合わせることで生まれるハーモニーの力強さや心地よさ、響き渡る歌声に包まれた時の感動…音楽のもつ力の凄さを改めて感じることもできたのではないかと思います。そして、終了後の感想文には、授業で話した「自分の殻を破って表現してほしい」という言葉を受け「殻を破ることができました。」「まだ殻は破れていないけど、歌うって楽しいし気持ち良いことに気付きました。」という感想が多くありました。合唱練習を通して自分自身と向き合い、成長するきっかけを見付けることができたのは、大きな経験だと思います。この経験を糧に、今後の学校生活においても互いの存在を大切に、支え合いながら困難を乗り越えていってほしいと思います。そして1日も早く、マスクを取って歌える日がくることを願います。